



進路だより

宮城県立支援学校小牛田高等学園

進路指導部

第3号 令和8年6月19日発行

第1学年 校内実習・グループ実習

初めて尽くしの1年生にとって、4月から学んだことを生かす重要な進路行事である校内実習・グループ実習が終了しました。高い緊張感と積み重なる疲労、大きな寒暖差など体調管理には難しい環境でしたが、ほとんどの生徒が15日間を無事に駆け抜けました。校内実習では(株)松倉様・(株)栄堂様の御協力を頂戴し、コモンホールを食品関係の製造業である模擬会社とし10日間の就労体験やビジネスマナー講座、園芸作業をし、その後2～4名のグループで5日間の職場体験実習を10事業所に分かれて実施しました。介護・農業・スーパー・介護補助(清掃等)・販売・運送・リサイクル業と様々な業種の体験を通して、働くことの意味を理解し、働く意欲を育て、挨拶・返事・確実な指示理解など働く上での基本的な態度を養えたと思います。また、生徒達は仲間と一緒に乗り越えることの大切さを実感し、後期実習に向けて成長してくれたと確信しています。



第2学年現場実習

2年生は、初めて居住地から通勤し、卒業後の働く生活をイメージしながらの実習となりました。実習直前の学年集会では、実習についての注意事項の話を聞き、気持ちを引き締めて実習に臨みました。事業所の都合等で実習開始時期がずれたり、2週間の実習になったりした生徒もいましたが、それぞれの実



習先で貴重な経験を積ませていただき、緊張しながらも充実した形で終わることができました。15日間最後までやり通したことは何よりも自信につながったと思います。御家族の皆様には、日誌のコメント記入、保護者見学など、御協力いただきありがとうございました。今後は実習先からの評価をもとに振り返りを行います。生徒一人一人が自分の課題解決に前向きに取り組み、次の実習へとつながるように指導していきたいと思っています。

第3学年現場実習

実習が始まってからは寒暖差の大きい日が続き、体調管理が難しかったと思いますが、ほとんどの生徒が大きく体調を崩すことなく、無事に15日間の実習を終えることができました。3年生は、これまでの実習でいただいたアドバイスや課題を意識し、「より良い成果をあげたい」という意欲をもって一人一人が実習に臨みました。2年生の時と同じ事業所で継続して実習した生徒、初めての事業所で新たに取り組んだ生徒など様々でしたが、いずれも実習先の方々に雇用の可能性を検討していただき、大変重要な実習となりました。そのため、これまでより実習時間を延長したり、実際のシフトを経験したりした生徒も多く、本人にとってもご家族にとっても、卒業後の働く姿をより具体的にイメージする機会になったようです。



～今回のテーマ～ 「ハローワークとは？」

前回のテーマである「就業・生活支援センター」でもお伝えした、障害者雇用促進法で定められた、3つの支援機関の2つ目が「ハローワーク」です。

まず「ハローワーク」について、学校との関わりを中心に説明します。（以下、HWと省略）
正式名称は公共職業安定所で、厚生労働省が運営しています。宮城県には、仙台、大和（出張所）、石巻、塩釜、古川、大河原、白石（出張所）、築館、迫、気仙沼にあり、それぞれ管轄する地域があります。しかし本校所在地である美里町を管轄するのがHW古川なため、HW古川が本校の全生徒を担当する窓口となっています。

まず学校は年度初めにHW古川と取り決めを行い、HWの職業紹介業務を一部代行しています。つまりHW古川の代わりに、学校が現場実習を通して、生徒一人一人に合った仕事を紹介しているのです。ただすべてが学校に任されているわけではなく、手続きは生徒本人が直接HWに行く必要があります。それが職業相談です。

職業相談の対象は卒業後に一般就労を予定している3年生で、5月の三者面談と合わせて行っています。これまでの実習経験、希望する職種や雇用条件、自分の特性について職場に伝えるべきことなどを、HWの職業指導官との面談で整理し、必要書類を提出します。その後、HWは提出された書類の内容をHWのデータベースに入力します。これを求職登録と言います。求職登録をすると、実際に職業相談をしたのがHW古川であっても、データベースは日本全国のHWで共有されます。このことにより将来、万が一離職したとしても、さらに日本全国どこでもHWに相談したとしても、スムーズに再就職に向けた支援を受けることができるのです。

HWの他の役割として、企業に対する雇用支援の側面もあります。障害者雇用に関する企業の相談に乗ったり、指導を行ったり、助成金の手続き窓口を担ったりしており、私達が気付かない所ではありますが障害者雇用が進むよう活動しているのです。

最後に障害者雇用に限らず、HWの最も大きな役割は求人票の受付業務です。この求人票が企業と求職者をつなぐ大切な書類であることは言うまでもありません。3年生の後期現場実習が終了したタイミングで、生徒が「この企業に就労したい」、企業が「この生徒を雇用したい」という状態になった場合、企業は求人票を作成し、HWに提出します。HWは求人票をチェックし、労働条件に法的な問題がなければ、求人票の右下に大きなHWの受理印が押されて正式な求人票が完成します。その後、企業から郵送で求人票が学校に送られてきますので、すぐに家庭に配布します。生徒と保護者で最終確認し、応募ということになります。

一見、HWはその存在や役割が見えづらいのですが、実は「生徒の就労を陰で力強く支えている機関」であると言えます。



前期の進路関係の行事予定



7月3日（金） 職場見学（1年）

7月7日（火）～10日（金） 進路三者面談（現場実習の振り返り）

9月25日（金） 卒業生事例発表会（是非ご参加ください。卒業生の“生の声”を聞くことができます）

9月30日（水） 後期現場実習決意表明式

